

□11月2日説教(隅野徹牧師)短縮版 「あの人の信仰は別の大切な方へ」マルコ2:1～12

皆様に特に注目していただきたい言葉があります。5節には「イエスはその人たちの信仰を見て」とあります。つまりイエスは4人の友人たちの信仰を見て、中風の人の赦しを宣言しておられます。病んでいた人自身の信仰や、彼が熱心に癒されたいと願っているかどうかについては、一切問うていないのです。しかし確実に言えるのは、彼の四人の友人たちは、神の子イエス・キリストによる癒しがなされると信じていたということです。彼らは他人の家の屋根を剥がすという迷惑な行為をしてまで、友人をイエスのもとに連れて行ったのです。その彼らの信仰を見てイエスはお喜びになり「子よ、あなたの罪は赦される」と言われたのです。

わたし自身ここで強く思わされるのは、自分でイエス・キリストのもとに救いを求めて行くことができない人に対し、その人が救われることを心から願い、そして実際にイエスのもとに連れて行く他の人が、とても大切だということです。中風という一般的なには、腕や脚が麻痺する病気を言います。しかし一説によればここで中風と訳されている言葉は「虚脱状態」を表しており、神を求めることにおける虚脱状態を伝えようとしているというものです。つまりこの場面で出てくる中風の人は、ただ肉体的な病をもっていただけでなく、霊的・信仰的な意味での虚脱状態を表しているのではないかという見方ですが、私もそう思います。

しかしそのような、イエス・キリストを見失っているような時に、助ける働きをする人がいることの恵みを、今日の聖書箇所は教えています。神が出会わせて下さる「助けてくれる友」によって、私たちは本来歩むべき道に立ち帰らせてもらうことができるのです。皆様にとって召天者の方々が、4人の友のような存在であると思って下さったら感謝です。皆様は、天への道を開いてくださる救い主イエス・キリストの御もとに「ぜひお連れてしたい」と願われた、大切な存在です。キリストと共に今、天から見守っておられる召天者の方々の思いに心を向けて、この先も歩んでまいりましょう。(終)